

取り組みテーマ ⑦

歴史・文化を通じた地域の活性化

このはなアートプロジェクト (此花区)

「このはなアートプロジェクト」(以下「プロジェクト」という。)は、幅広い年代の区民やアーティストなどの参加で、公共施設等の壁面に芸術性の高いアートを制作し、居住空間のなかにアートを採り入れることにより、区民が潤いを感じる場、区を訪れる人々が交流できる憩いの場を、創出していこうとする平成19年度からの取り組みです。

プロジェクトには、3つのコンセプトがあります。「花」と「エコ」と「つながり」です。「花」は区の花であるチューリップとさくらをイメージ、「エコ」は陶器などの自然の素材を使用することや廃材の再利用、「つながり」は人やまちとのつながり、アートとのつながりを意味しています。この3つのキーワードを基にし、区民、アーティスト、芸大生、区職員などで構成される「アートワークショップ」メンバーが、企画・運営を含めこの活動を支援しています。



プロジェクトが始まってから3年が経とうとしています。このプロジェクトには、下は幼児から上は80歳代の高齢者の方まで、延べ約3,300人の人々が関わり、陶板6,400枚と陶器の廃材4,400枚の合計1万枚を超える陶板が壁面に貼り付けられました。プロジェクトによって制作された陶板の一枚一枚には、参加した人々の強い思いが詰まっています。自らの手で粘土を捏ね、成型し、陶板にデザインを描き、釉薬を塗る。焼成が終われば、陶板を貼り付ける。こんな工程を経て、一つのアート作品として完成したとき、達成感とともに、アート活動の楽しさ、すばらしさを感じることは、当然の成り行きかも知れませんが、

プロジェクトによるアート作品は、ペイント主体の1作品を含め10作品となりましたが、制作していただいた方々の強い思いのおかげか、いたずらや破損などもほとんどなく、現在も存在感を放っています。

今年度で重点事業としての位置づけが終わるこのプロジェクトは、新しい段階に移行しようとしています。しかしながら、誰もが同じ位置づけで活動し、誰もが自由に参加し、参加する誰もが主役であることは、今後も変わることはないでしょう。また、プロジェクトが始まってから、此花区ではいくつかのアート活動が芽生えています。一つは、民間企業が主体となって、商店街やまちのあちこちにアートを創作する活動が始まり、また区役所においても、昨年、市民協働スペースに、咲くやこの花中学校の生徒や区民らの手で制作された、縦2.4メートル×横3.7メートルの巨大壁画が出現しました。

かつて、自然をこよなく愛し「色彩の魔術師」と謳われた、フランスの画家アンリ・マティスは、『私は人々を癒す肘掛け椅子のような絵を描きたい』という言葉を残しました。

此花区においても、「人を癒す肘掛け椅子」のようなアートを、まち全体に並べていきたいと考えています。



すみよし博覧会

「観光区住吉」復活事業 (住吉区)

住吉区には、紀州街道・熊野街道・磯齒津路(しはつみち・住吉街道)の三古道が走り、戦後も「大阪見物と住吉詣に訪れる市内で最も優れた『観光区住吉』と住吉区誌にもあるほど観光地として栄えた歴史を持っています。

平成 19 年度に「観光・集客のまちづくり」として住吉大社周辺・帝塚山地域において、神社・お寺・ギャラリー・店舗など地元自慢の資源や人材の発掘調査を行い、これらの施設をパビリオン(展示館)に見立てた「すみよし博覧会」を開催、また、地元の情報を発信するガイドブックを 5,000 部作成し区役所や区民センター、住吉大社などで配布し、好評を得ました。

平成 20 年度は、前年の催しに参加・協力いただいた「すみよし歴史案内人の会」や帝塚山音楽祭実行委員会、商店街や地域の方々等と「観光区住吉ラウンドテーブル」を立ち上げ、コンサートやガイドツアーなど各イベントにも、企画段階から参加いただき「すみよし博覧会Ⅱ」を実施しました。ガイドブックについては 10,000 部に増刷し、南海電鉄等の協力も得て配布しました。

平成 21 年度の「すみよし博覧会Ⅲ」は、歴史的建造物である住吉大社の五月殿における野外コンサートの開催、また、イベントへの協力者を増やし、万代池公園にて手作り雑貨のフリーマーケット、帝塚山ギャラリーでの帝塚山学院美術コースの作品展示等、各イベントやギャラリーの充実、ガイドツアーの拡充を図りました。ガイドブックも 20,000 部に増刷し、設置場所も大阪市内全体に拡大し、来場者数も約 8,000 人を超えました。

今後も、より多くの方々に参加をいただくと共に、区全体の活性化の取組みとして発展を図ってまいります。



川と海をつなぐ舟運 にぎわいまちづくり事業

(大正区ほか 5 区)

大正区は、周囲を海と川に囲まれ、南北を流れる木津川や尻無川は、江戸時代の物流ルートとして、また、朝鮮通信使の往来など文化の窓口として栄えました。

近年、第一次世界大戦下、区内にドイツ兵俘虜収容所が存在した史実の再発見を契機に、大正区を訪れる方々へのまち案内活動が、区民ボランティアにより行われています。

このような区の特色や歴史を地域の活性化に役立てるため、平成 20 年度に、鶴浜岸壁で「夕日コンサート」を開催したほか、区民ボランティアが地域の歴史を語るガイドクルーズ等を実施しました。

平成 21 年度は、地域団体、商工団体など 8 団体や区民ボランティアと協働して、「鶴浜フェスタ」を鶴浜岸壁で開催。大正区とドイツとの友好の歴史の紹介や、大正区とゆかりのある沖縄、ドイツ等の料理・物産の展示・販売、ライブ演奏・ダンス・エイサーの実演やガイドクルーズ等を幅広い区民の協力を得て実施し、区内外から約 4,000 人の集客がありました。

また、区民ボランティアとの協働で実施した「渡船場・史跡スタンプラリー」と「ぐるっと大正船さんぽ」には、合わせて約 2,000 人の参加者があり、大正区のまちの魅力を広く情報発信しました。

今後も市民協働の取組みを広げ、集客による活性化に取り組んでいきます。



北区歴史発信事業

(北区)

北区は大阪の玄関口として、また職住近接の調和のとれたまちとして発展してきました。特に経済・文化・芸能におよぶ重層的な歴史の厚みをもったまちで、大阪内外に広く知られる歴史的資源が存在する地域です。

以前から、北区ではガイドボランティアグループが発足し、区内の歴史や文化資源などをアピールするとともに、新たな魅力を見つけ出す活動が行われていますが、まだまだ知られていない歴史・文化資源が存在するため、それらを広く発信することで地域活動の活性化へつなげることを目的として、平成20年度からの2か年で北区歴史発信事業を行いました。

具体的な取組みとして、平成20年度は専門的調査や地域住民による歴史情報の掘り起しを行い、それらを冊子にまとめ情報発信しました。また、北区の歴史・文化をアピールするためのイベントも開催しました。

平成21年度は、「北区の歴史・まちあるきガイドブックをつくろう」をテーマに地域住民参加のワークショップを行い、その中で歴史・文化にあふれる北区の魅力やまちの見どころを8つのコースにまとめたガイドブックをつくりました。

今後は、完成したガイドブック、紹介しているガイドコースを、北区の魅力ある観光資源として広く発信し、各方面で活用してもらうことで、一層の地域の活性化を図ります。

